

2025年11月期第2四半期決算説明会(オンライン開催) 質疑応答要旨
(開催日時：2025年7月11日(金) 16時30分～17時15分)

I. 2025年度第2四半期(中間期)実績	
<p>Q. 米価上昇による業績への影響は？ 来期以降の需要動向は？</p>	<p>A. 米価上昇により防除意欲が高まっており、水稻剤（主に除草剤および水稻育苗箱剤）の引き取りが例年より順調であった。</p> <p>農水省の資料によると、米の作付け面積全体では前年の151.2万haから増加しない見込みであるが、主食用米の作付け面積は、前年の125.9万haから今年は133.4万haになり、前年比7.5万ha、6.0%の増加の見込みとなっている。加えて、生産者の防除意欲も高まっている。</p> <p>水稻用農薬の当期売上高9.4%増加には、これらの要因も織り込まれていると推定している。</p> <p>主食用米作付け面積の拡大や防除意欲の高まりが、当社の農薬事業にとってフォローになっているが、水田や種籾確保の制約などもあり、来期以降の農薬需要が当期のように伸びるわけではないと考えている。</p>
<p>Q. レジスト関係について、K r F、E U Vの需要動向は？</p>	<p>A. 電子材料分野の売上高23億円のうち、レジスト用原料が約16億円（前期比±0）。このうち、K r Fが約8億円（同▲1億円）、A r Fが約2億円（同+1億円）、E U Vが約0.1億円（同▲2億円）、生成A I向けが約6億円（同+2億円）。</p> <p>主力のK r Fは、販売先の在庫調整が続いており、想定より需要の回復が遅れている。通期の売上高は17億円程度（同▲1億円）を見込んでいる。</p> <p>E U Vは、下期は順調な受注が見込まれ、通期の売上高は3億円程度（同▲2億円）を見込んでいる。</p>
<p>Q. 生成A I向けの需要動向は？</p>	<p>A. 販売先での具体的な用途は確認できていないが、当社が生成A I向け用途と認識している製品の売上高は、前期に約9億円まで伸長した。</p> <p>中期的には、生成A I向け半導体の需要拡大に伴い、弊社の販売も増加傾向が見込まれることになりは変わらないが、下期の売上高は、取引先の在庫調整の影響もあり、上期（約6億円）より若干増える程度と見ている。来期には在庫調整の影響が終わるのではないかと見ている。</p>

Ⅱ. 「第2次3ヵ年経営計画」への取り組み

<p>Q. 農薬事業の再構築における北海道工場の2つの生産ライン廃止の効果は？</p>	<p>A. 製剤のラインアップの変更や新製剤の開発を進めることで生産ラインを集約し、売上高を減少させることなく、固定費等のコストを低減させていくことが可能と考えている。</p> <p>また、農薬工場の2拠点化を推進しつつ、将来の農薬市場の動向も見極めて、残る生産ラインの省人化や効率化などを検討し、コストダウンを徹底していきたい。</p>
<p>Q. 自社株買いの規模が大規模とは言えないのではないか？</p>	<p>A. 弊社は、上場から2024年度までに3回の自己株式取得を実施し、既に当初の発行済株式総数の11.4%にあたる取得（累計取得数3,409千株）を行っている。</p> <p>今回の取得規模は、これまでの取得数や流通株式の状況、成長投資への集中的な取り組み等財務戦略の基本的な考え方などを勘案した中で決定したものであり、規模が小さいとのご意見があるかもしれないが、弊社が資本効率向上や株主還元充実に取り組む姿勢として見ていただきたい。</p> <p>なお、2024年10月決定分（10億円の残額399百万円）を加えた2025年度の自己株式取得額は、1,199百万円になると見込んでいる。</p>

本資料に記載されている業績予想・将来の見通しに関する記述等に関しましては、現時点で得られた情報に基づいて判断・算定したものであり、実際の業績は、今後のマクロ経済動向および市場環境、並びに当社グループに関連する業界動向、またその他内部・外部要因等さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。